１０月 山行報告

◆青葉山下見山行・・・〔山の会　アルプさんの山行に同行させて頂きました。〕

日　　時：１０月１４日（土）
同行者：今山正雄　待場節子
行動記録：ＪＲ加古川北口ロータリー６：４５青葉山登山口１０：１０～
　　高野集落１４：４０～加古川駅着２１：２７

青葉山　交流山行に参加して

今山(正)

青葉山、登山の下見の必要性を感じていた時、以前より気にかけてくれていた山の会　アルプの中村さんが、うちの山行に参加しませんか？と誘ってくれた。早速事務局へ連絡し、当会より２名が参加しまた。参加者名簿を見ると１６名中会員９名、会員外７名の構成になっていた。

加古川駅北ロータリー６：４５出発、三の宮で全員乗車どなたさんもよろしく！挨拶を交わす。バスは一路六甲有料道路より有馬方面へ。六甲北有料より舞鶴自動車道へ合流、バス終点の松尾寺には１０：１０着。ストレッチの後出発、お寺の裏口が登山口であった。１５分ほど竹やぶの木漏れ日の中を歩く。鳥居をくぐり、ここから５０分ほど急登ですと中村さんから説明があつた。つづら折れにくるくると回りながら高度をかせぐ。杉の人口林からいつのまにやらブナ林の中へ。途中、２回の休憩があり、皆さんがレーションを分けてくれて嬉しかった。やがて古い祠にでた。尾根道を少し歩くと木々の隙間から若狭湾内が見えてすぐ青葉山西峰（６９９M）に着いた。北にリアス式の若狭海岸、西は地元の高野集落や山々が・・なんでもここから白山が見えるとか？記念撮影と食事を済ませ、いざ東峰へ。クサリ、階段、岩稜、トラバースなんとも変化に富んだ山道だ。３５分ほどで東峰〈青葉神社〉着。ここからいよいよ縦走下山路だ。階段はしっかり整備されていて、足に易しい、しかも迷うことのない山道だった。展望台で最後の日本海を眺め高野集落へ１４：４０無事下山。手配の運転手（中村さんの友人）がバスを回して待っていてくれた。車は一路国道７７号線をあやべ温泉へ。やまあいの現地着は１６：２１。ゆっくり温泉と食事をした。いつもながらビールの味は格別だった。ここは「まこも」が有名で温泉にも、又、売店でも販売していた。帰路のバスは歌集を出して乙女達（昔の）がリーダーとなり次々と山の歌を合唱し、三の宮着の２０：４０まで途切れることがなかった。加古川には２１：２７に着いた。

今回の交流山行で感じたことはリーダーの細やかな配慮とメンバー（特に女性達）の積極的に楽しむ姿勢を学びました。

今後、当会でも交流山行を取り入れて山行バリエーションを広げていくべきだと思います。山の会　アルプの皆さんどうも有難うございました。

◆大峰・奥駈け道
池郷林道車止～持経の宿～前鬼小仲坊

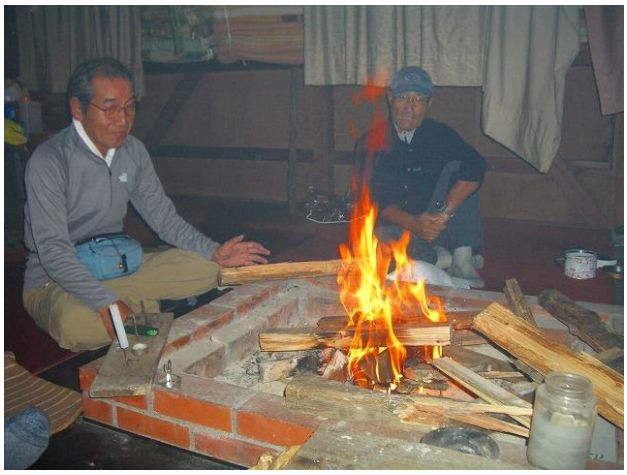
日　　時：９月３０日（土）～１０月２日（月）
リーダー：砂川(延)　　参加者９名
大峰山：奥駆け日記　　金島

大峰奥駈け道
行動記録

ポイント	着	発	記事
第１日目			
ＪＲ加古川北口		6:55	
前鬼口	11:15		
池郷林道車止	12:00	12:40	
持経宿着	14:05		
第２日目			
持経宿発		4:55	
阿須賀利岳	5:25	5:35	1251m
涅槃岳手前	6:50	7:05	朝食
涅槃岳	7:10		
滝川の辻	8:15		
奥守岳	10:15	10:25	
天狗山	10:40		
太古の辻	12:00	12:10	
二つ岩	13:10	13:20	
前鬼山小仲坊着	14:40		
第３日目			
前鬼山小仲坊発		8:20	
割烹・やまぐち	13:10	14:10	昼食
ＪＲ加古川北口		20:45	

何よりも気にかかるのはお天気。夜明けと共に空を見上げ晴れ模様で一安心。私にとって大峰山シリーズ４回目の山行です。外出する妻には不機嫌な主人に丁重に留守を頼み精一杯優しい顔で朝 6 時 30 分家を出る。明石サービスエリアで男性５名女性４名総勢９人が揃い簡単なミーティング､後は一路大峰山登山口の下北山に急ぐ。今回の計画は白谷トンネルからの登山であったが下北山スポーツ公園に着いたのがお昼前、リーダー砂川さんと男性諸氏のミーティングの末、時間等を考え安全策を取り持経ノ宿まで林道を登ることになった。帰路の段取りのため砂川さん今山さんが車を廻している間に私たち 7 名は一足先に持経ノ宿に向う。この場所でも十分山中にあり耳の中がツンとする。常緑樹が多いのか、秋を感じる紅葉は無いが、栗が落ちススキの穂波が揺れている様はやはり秋、気持ちの良い林道を登る。突然、がさがさ音がしたかと思うと左山中から鹿が飛び出し私たちの前を横切った。林道とはいえやはり大峰山中である。ここは彼らのエリア､一瞬､ｷﾞｸと足が止まる。１４時１０分、目的の持経ノ宿に到着した。早速ザックをおろして水を汲みに行く人、小屋の中を掃除する人、一夜の宿の用意にかかる。１６時過ぎには砂川、今山さんも到着。コーヒーなど沸かして楽しむ。秋の夕暮れは早く体も冷えてきた。小屋の中に囲炉裏がきってあり薪も少々用意してある。男性諸氏は手なれた扱いで火をおこし囲炉裏に焚き火をしてくれたのです。煙とともに薪の燃える匂いのなんと懐かしい。焚き火など私にとっては何年ぶりでしょう。９名は赤々と燃える火をじっとみつめ、身も心も解けていくような沈黙が続きました。明日の良い天気を祈りながら 19 時には早々ｼｭﾗﾌの中就寝。

１０月１日（日）



４時起床。夜を通して降った雨はあがった様子。闇の中に白いモヤがかかり薄暗い山陰はまるで水墨画です。５時出発に向けて女性陣はこんなときでも手早くひとふでがきのお化粧・・。４時５５分一夜のお礼を心に山小屋持経ノ宿を後にした。夜明けにはまだ時間がありﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟで足元に用心しながら太古の辻に向いて登りにつく。そんなに寒くは無いが山の中の空気は冷たい。最初のポイント阿須迦利岳に着く。５分の休憩。夜はまだ明けない。突然リーダーの“ウエ！ウエ！”まるで横隔膜から絞るような奇声？目線の先になにやら動物がじっとこちらを見ている。思わず体が硬直する。鹿らしき動物はすぐに退散した。ほっと胸をなでおろす。空が白んできたころから心配してい

た雨が落ちてきた。
全員合羽上を着用。すべる岩場を用心しながら証誠無漏岳を無事通過、7 時、涅槃岳手前でおにぎりと持参の沢庵２切れの朝食をとる。晴れていたなら大峯山特有の風景を楽しむことができるのに、山並みを楽しむことができるのに、今回それは望むことができない。残念至極。小屋を出発して３時間歩いたころ雨はますます本降り、雨にうたれながら前進のみ。ｼｭﾘﾝｹﾞも装着して進む。滝川辻を通過、般若岳に登る。今回は背丈の低い笹の中から蛙によく遭遇した。ｸﾞﾛﾃｽｸで体全体は薄緑色、顔のあたりがなぜか赤い。さては、赤面症の青蛙か・・？楽しくなる。雨脚強く、合羽下も着ることになったが私は歩き難いことと暑さで装着しないで歩くことにした。しかし、後のなってこの合羽下ズボンをつけなかったことで大変な失敗の経験をすることになる。足元の笹は雨をたっぷり含みスパッツの隙間から遠慮なく靴の中にしみこんでくる。わずかの間に右側の靴の中は靴下がぬれてきてしまった。登山靴からの水漏れと思っていたが結果は雨にぬれたズボンからのしみこみで靴の中の気持ちの悪いことこの上なし。しかし、もうこのままで歩くことにする。奥守岳を通過、雨中景色は見えないので道標を見て山の形を想像。いよいよ今回の最高峰天狗山に登る。１５３６米三角点にタッチして早々に先を急ぐ。雨でなければどんなに見晴らしの良い山であったろうかと残念。天狗山から下りたところで太古の辻まで９０分の道標を見つける。太古の辻は前回大峯山山行の時釈迦岳から降りたところの覚えある所。前鬼に近くなったことで嬉しくなる。まだ前鬼まで４時間もあるのに懐かしい道標に元気が出る。９名は黙々雨の中を歩く。到着したらビールで乾杯と想像しながら歩く。太古の辻には計画通りに正午到着。少しゆっくりの休憩を取りいよいよ下山体制にかかる。10 キロのザックが肩に食い込むが今回の山行ではそれほど苦にならない。ザックが背中になじんでいる。もしかしてこの１年で　私、少しやせた？それとも背中の贅肉が取れた？自己満足・・。雨は一時も休むことなく降り続いている。両足の靴の中はぐちゅぐちゅで気持ち悪い。しばらく下山すると土砂崩れで道が見えなくなった。リーダーは用心深く道を探す。ちぎれてひらひらしているリボンを見つけて一安心。鎖につかまりながら着地。１３時１０分大きく割れている二つ岩に到着。太古の辻から１時間たっぷり下山しているがまだまだ先が長い。前回はここで記念撮影やら長めの休憩であったが今回は５分の休憩。みかん一個を口に押し込む。とにかく下山を急ぐ。沢を二つ超すと前鬼宿坊であるが木道に木道が続き何時到着できるのかと不安になってくる。大きな沢に着いた。対岸に渡りきる場所を見極めて注意して渡る。あとひとつ沢を渡ると前鬼宿坊である。うっかり歩くとすべる木の根っこを交わしながら一歩一歩と下山。やがて里山のような森の中に入ってきた。落ち葉でふわふわの道を進むと沢を流れる水の音が聞こえてくる。二つ目の沢にかかった。もう近いぞ・・。
下方、目の先に雨に煙る屋根が見えたような気がした。リーダーに“見えてるのは屋根ですか？”と聞いてみる。“前鬼の宿坊ですよ。もうすぐです。”涙があふれてきそう。長い下山だった。下山を始めて２時間４０分、やっと私たちは前鬼の宿坊にたどり着くことができました。今回の山行は花を見ることも紅葉を見ることもなかったけれど雨に煙る大峯山の幻想的な風景をしっかりと楽しみました。１４時４０分、宿坊に到着。朝５時、持経ノ宿から歩き通した皆さんと握手を交わし胸が詰まる思い。合羽を脱ぎ、ぼとぼとにぬれた靴を脱ぐ。なに！なにやら靴下の繊維の間を虫のような赤いものが動いています。それは大峯山に住むヒルでした。驚きと気持ち悪さで一瞬言葉が出ない。何時どこで、忍び込んだか私の靴の中で少なくとも５時間くらいヒルと共に歩いたのです。放心状態の私を見かねて宿坊の奥様は靴下の中からヒルを素手でつまみ出しマッチで火あぶり退治。虫嫌いで情けない私は更に言葉が出ない。面白くてちょっと辛い忘れられない今回の大峯山でした。夕食でのビールの味は完璧、もちろん忘れられない。終

会員紹介ページ